哲学Ⅰ　Philosophy Ⅰ　（月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

相対主義と普遍主義

古くから存在する相対主義と普遍主義の対立を、さまざまな分野について検討、考察し、現代では無意識のうちにとられがちな相対主義的思考の問題点を浮き彫りにする。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

２．キーワード

相対主義、普遍主義、疑似科学

３．到達目標

・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

４．授業計画

第１回　相対主義とは何か
第２回　さまざまな相対主義
第３回　パラダイム相対主義
第４回　共約不可能性
第５回　科学と合理性
第６回　サイエンス・ウォーズ
第７回　疑似科学
第８回　文化相対主義
第９回　翻訳と文化
第10回　言語相対主義
第11回　サピア・ウォーフ仮説
第12回　道徳的相対主義
第13回　さまざまな道徳説
第14回　道徳の普遍
第15回　まとめ

５．評価方法・基準

期末試験（約70％）および数回のノート提出（約30％）で評価する。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

バーンスタインR.J.,『科学・解釈学・実践：客観主義と相対主義を超えて』１、２（岩波書店、1990）

本館 閲覧室３階 研究用図書 401‖B-11‖1

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ　Philosophy Ⅰ　（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

トランスヒューマニズム：人間改造の哲学

コンピュータ技術や医療技術の急速な発展によって、従来の「人間の条件」をも改変するような変革がもたらされるとの予測が一部でなされている。こうした技術発展が近い将来にもたらす可能性のある、人間観、倫理観の根本的変革が何をもたらすかを検討する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

２．キーワード

ポスト・ヒューマン　人間の条件　エンハンスメント　ヒトゲノム

３．到達目標

・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

４．授業計画

第１回　トランス・ヒューマニズムとは何か
第２回　新しい人間？
第３回　人間の条件
第４回　クローン人間
第５回　再生医療
第６回　新しい優生学
第７回　デザイナー・ベビー
第８回　エンハンスメント
第９回　ポスト・ヒューマン
第10回　ヒトゲノム計画
第11回　人間を超えるAI
第12回　脳のモデル化
第13回　ニーチェの「超人」
第14回　まとめ
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（約70％）および数回のノート提出（約30％）で評価する。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

レイ・カーツワイル、『ポスト・ヒューマン誕生：コンピュータが人類の知性を超えるとき』（日本放送出版協会、2007）

本館 閲覧室３階 学生用図書 549.9‖K-583

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ　Philosophy Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

地球温暖化論争

本講義は、２、３年生を対象とした中級講義である。環境問題を素材に、事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

●授業の目的

地球温暖化問題については、従来から根強くあった温暖化否定論が近年活発に論じられるようになった。各種温暖化否定論者の主張を検討し、不確実な問題についての合理的判断力を養う。

２．キーワード

地球温暖化、救命艇倫理、環境リスク、世代間倫理

３．到達目標

・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

４．授業計画

第１～２回　地球温暖化論
第３～５回　地球温暖化否定論
第６回　　レポート検討Ⅰ
第７～８回　リサイクルの功罪
第９～11回　環境リスク論
第12回　　レポート検討Ⅱ
第13回　　世代間倫理
第14回　　ディープ・エコロジー
第15回　　救命艇倫理

５．評価方法・基準

講義進行中に課せられる２回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

武田邦彦著『偽善エコロジー：「環境生活」が地球を破壊する』（幻冬舎、2008）　本館 閲覧室３階 519||T-3

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ　Philosophy Ⅱ　（月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

先端医療の急速な発達に伴って、われわれは従来のやり方では十分に扱えない倫理的問題に直面している。人間の生老病死に関わるこのような問題は、専門家のみに解決を任せることはできず、われわれの人間観・死生観に大きな影響を与える可能性をもっている。本講義では、安楽死と脳死移植という現代の「死」に関わる倫理的問題を取り上げる。

●授業の目的

先端医療の発達に伴う倫理的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

２．キーワード

脳死、尊厳死、自己決定、生命倫理

３．到達目標

・尊厳死および脳死にまつわる倫理的問題を理解する。
・それに基づいて、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

４．授業計画

第１回　哲学は死の練習
第２回　安楽死の二つの概念
第３回　安楽死概念の文化的背景
第４回　自己決定の諸問題
第５回　死の自己決定
第６回　＜関係＞としての死
第７回　脳死とは何か
第８回　脳死移植の歴史
第９回　日本における脳死論議
第10回　和田移植の問題
第11回　脳死移植に伴う諸問題：免疫系と拒絶反応
第12回　免疫系の「自己」
第13回　脳死移植をめぐる人間関係
第14回　脳死者（ドナー）を「人」として捉える
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『生と死の倫理学：よく生きるためのバイオエシックス入門』。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室３階 490.1||S-7

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ　Philosophy Ⅱ　（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

脳・身体・ロボット

近年、人工知能研究やロボット工学の分野で、知能に関する新しいアプローチが提唱されている。それは、人間を環境内存在としてとらえ、脳・身体・環境を相互に作用し合う一体の存在者として、その知能を解明しようとするものである。じつは、このような考え方は身体の哲学にその先駆がある。本講義では、身体の哲学を背景にした新しい知能研究が、知能観、人間観にどのような変革をもたらすかを探る。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

２．キーワード

脳、人工知能、身体性

３．到達目標

・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

４．授業計画

第１回　インテリジェンス・ダイナミクス
第２回　知能とは何か
第３回　AIの歴史
第４回　記号・情報処理モデルの限界
第５回　ニューラル・ネットワーク
第６回　力学系
第７回　ポランニーの暗黙知
第８回　メルロ=ポンティの身体の哲学
第９回　身体図式の獲得
第10回　環境内存在
第11回　身体性
第12回　発達の観点
第13回　共同注意
第14回　まとめ
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（約70％）および数回のノート提出（約30％）で評価する。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

土井利忠、藤田雅博、下村秀樹編『脳・身体性・ロボット：知能の創発をめざして』（シュプリンガー・フェアラーク東京、2005）

本館 閲覧室３階 549.9||D-

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00 ～ 16：00

哲学Ⅱ　Philosophy Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

●授業の概要

生殖医療の倫理

本講義は、２、３年生を対象とした中級講義である。先端医療を巡る倫理問題の考察を通じて、考える力、論理的表現の力を養う。

●体外受精を前提にした生殖補助医療をめぐる問題のうち、脳死移植および受精卵診断を事例として取り上げる。これら先端医療が、従来の人間観に与える影響の理解を目指す。

２．キーワード

自己決定権、幸福の追求権、パーソン

３．到達目標

・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

４．授業計画

第１回　　脳死移植の歴史
第２～３回　日本の現状
第４回　　諸外国の現状
第５回　　病気腎移植
第６回　　レポート検討Ⅰ
第７～８回　受精卵診断
第９～11回　「生命の選択」と新優生学
第12回　　レポート検討Ⅱ
第13～15回　生命倫理学の問題

５．評価方法・基準

講義進行中に課せられる２回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25％、期末レポート50％。

60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『生と死の倫理学』：よく生きるためのバイオエシックス入門。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室３階 490.1||S-7

７．教科書・参考書

授業時に資料を配布。

８．オフィスアワー

月曜日：15：00 ～ 16：00

倫理学Ⅰ　Ethics Ⅰ　（月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　堺　正憲

１．概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。
（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

２．キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、無からの創造、永遠、時間

３．到達目標

１．アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。
２．本授業では、先ず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を考察し、次に、『告白録』第１巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第１巻から第10巻までの要旨を概観し、さらに、第11巻に基づいてアウグスティヌスの時間論を考察することによって神の永遠性と被造物の時間性について理解する。

４．授業計画

第１回　哲学と倫理学
第２回　哲学とキリスト教
第３回　告白と讃美
第４回　神と被造物
第５回　人間の罪
第６回　神の三位一体と御言の受肉
第７回　キリストによる救い
第８回　『告白録』第１巻から第10巻までの要旨（１）
第９回　『告白録』第１巻から第10巻までの要旨（２）
第10回　『告白録』第11巻（１）―旧約聖書創世記巻頭の「始めに神は天地を造りたもうた」の「始めに」の意味
第11回　『告白録』第11巻（２）―神の御言と無からの世界創造
第12回　『告白録』第11巻（３）―時間とは何か―過去、現在、未来について
第13回　『告白録』第11巻（４）―時間と精神
第14回　『告白録』第11巻（５）―永遠の現在への精神の集中
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

８．オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。
（E － mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅰ　Ethics Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　堺　正憲

１．概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。
（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

２．キーワード

アリストテレス、倫理学、政治学、民主制、寡頭制

３．到達目標

１．アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第１部と第２部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考える。
２．本授業では、先ず、倫理学と哲学との関係、倫理学と政治学との関係を概観し、次いで、アリストテレス著『政治学』第１巻から第５巻までの内容を概観した上で、第６巻に基づいて、民主制と寡頭制を組織する固有の方法について考察し、内容を理解する。

４．授業計画

第１回　倫理学と哲学（１）
第２回　倫理学と哲学（２）
第３回　倫理学と政治学
第４回　『政治学』第１巻の要点
第５回　『政治学』第２巻の要点
第６回　『政治学』第３巻の要点
第７回　『政治学』第４巻の要点
第８回　『政治学』第５巻の要点
第９回　『政治学』第６巻について
第10回　民主制を組織する固有の方法（１）
第11回　民主制を組織する固有の方法（２）
第12回　民主制を組織する固有の方法（３）
第13回　寡頭制を組織する固有の方法（１）
第14回　寡頭制を組織する固有の方法（２）
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

７．教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』（ 岩波文庫）081/I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

８．オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。
（E － mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ　Ethics Ⅱ（月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　堺　正憲

１．概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。
（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

２．キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、無からの創造、天、地、無形の質料

３．到達目標

１．アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。
２．本授業では、先ず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を概観し、次に、『告白録』第１巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第１巻から第11巻までの要旨を概観し、さらに第12巻に基づいて無からの天地創造についてのアウグスティヌスの解釈を考察することによってキリスト教の創造の思想を理解することを目指す。

４．授業計画

第１巻　哲学と倫理学
第２回　哲学とキリスト教
第３回　告白と讃美
第４回　神と被造物
第５回　人間の罪
第６回　神の三位一体と御言の受肉
第７回　キリストによる救い
第８回　『告白録』第１巻から第11巻までの要旨（１）
第９回　『告白録』第１巻から題11巻までの要旨（２）
第10回　『告白録』第12巻（１）―「天」についての解釈
第11回　『告白録』第12巻（２）―「地」についての解釈
第12回　『告白録』第12巻（３）―無形の質料
第13回　『告白録』第12巻（４）―「天地」についての様々な解釈
第14回　『告白録』第12巻（５）―聖書解釈について
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（100%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

８．オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E － mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ　Ethics Ⅱ（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　堺　正憲

１．概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。
（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

２．キーワード

アリストテレス、倫理学、政治学、最高善、教育

３．到達目標

１．アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第１部と第２部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考察する。
２．本授業では、先ず、倫理学と哲学との関係、倫理学と政治学との関係を概観し、次いで、アリストテレス著『政治学』の第１巻から第６巻までの内容を概観した上で、第７巻に基づいて、個人と国にとっての最高善、最善の国の構成、最善の国における教育の一般原理、教育の初期段階について考察し、内容を理解する。

４．授業計画

第１回　倫理学と哲学（１）
第２回　倫理学と哲学（２）
第３回　倫理学と政治学
第４回　『政治学』第１巻の要点
第５回　『政治学』第２巻の要点
第６回　『政治学』第３巻の要点
第７回　『政治学』第４巻の要点
第８回　『政治学』第５巻の要点
第９回　『政治学』第６巻の要点
第10回　『政治学』第７巻について
第11回　個人と国にとっての最高善
第12回　最善の国の構成
第13回　最善の国における教育の一般原理
第14回　教育の初期の段階
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（100%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

７．教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』（ 岩波文庫）081/I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

８．オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E － mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

歴史学Ⅰ　History Ⅰ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　水井　万里子

１．概要

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15 世紀末から 18 世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15 世紀末から 18 世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（茶）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

２．キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「茶」

３．到達目標

①歴史学の考え方を理解。（30%）
②マクロ・ミクロ史を理解（40%）
③日本語による歴史記述を習得（30%）

４．授業計画

①ガイダンス
②大航海時代とは？・個別事例：スパイス
③理論・個別事例：茶
④大航海時代：１ポルトガル・スペイン
⑤スパイスと北西ヨーロッパ
⑥大航海時代：２中核国の推移
⑦大航海時代：３オランダ・イギリスの勃興
⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
⑩紅茶・コーヒー・砂糖
⑪イギリスの紅茶文化
⑫大量消費と植民地生産
⑬帝国の揺らぎ
⑭植民地：過去・現在
⑮期末試験

５．評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト　　20%
レポート　　20%
期末テスト　60%

60%以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習として VOD：『サイモン・シャーマの英国史　英語（日本語字幕版）11 、14』『素晴らしい列車の旅　バイリンガル版１（インド東から西へ）』の視聴を勧める。

７．教科書・参考書

参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998 年。081‖C-1‖596

８．オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Mon1kit@aol.com　１限
Mon2kit@aol.com　２限

歴史学Ⅰ　History Ⅰ（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　水井　万里子

１．概要

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。ヨーロッパ諸国やアメリカが世界の資源開発に着手した大航海時代から19世紀の植民地時代までを通観することで、資源開発に関わる人・国家・物・私企業の関係性の変遷が見えてくる。

●授業の目的

17世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の資源開発に焦点をあてる。資源とは何か、資源の所有権、資源開発のプロセス、資源の開発、生産、流通に関する人々の役割、資源開発にともなう諸問題（環境・グローバル化・貧富格差等）について事例を交えて学び歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「資源」や「開発」はヨーロッパやアメリカの経済の歴史を理解する上で、重要なキーワードである。しかし、現代の大規模鉱山は中東、アフリカやラテン・アメリカなど、西洋諸国とは異なるエリアに存在するものが多い。日本でもほんの数十年前まで石炭を中心とする大規模鉱山が各地に存在したが、今や産業遺跡としてのみ形をとどめているものも少なくない。授業ではまず、西洋や植民地における資源の種類（金属・化石燃料等）について個別に学ぶ。また鉱業技術の発達や鉱夫の労働・コミュニティのあり方を理解し、鉱山社会（ヤマ社会）について検討する。資源と開発という現代的な問題をその起源から洗いだしていく。

２．キーワード

「資源」「開発」「技術」「グローバル化」「西洋」「植民地」

３．到達目標

①歴史学の考え方を理解。（30%）
②マクロ・ミクロ史を理解（40%）
③日本語による歴史記述を習得（30%）

４．授業計画

①ガイダンス
②歴史学方法論
③資源と歴史
④植民地と開発
⑤個別事例　金属１開発
⑥　　２生産
⑦　　３流通
⑧小テスト
⑨個別事例　石炭１開発
⑩　　２生産
⑪　　３流通
⑫個別事例　ゴム１開発
⑬　　２生産
⑭　　３流通
⑮期末試験

５．評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

・成績評価レポート①　　20%
・レポート②　　30%
・期末テスト　　50%

60%以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史　英語（日本語字幕版）11、14』『素晴らしい列車の旅　バイリンガル版４（東南アジア豪華な気分で）』の視聴を勧める。

７．教科書・参考書

山口梅太郎『放送大学印刷教材 140（現代資源論：鉱物資源とその開発）』1986年。375.9‖H-2‖140

８．オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Fri2kit@aol.com

歴史学Ⅱ　History A Ⅱ （月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　水井　万里子

１．概要

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代（近世・近代）に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわれることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18 世紀末から 19 世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16 世紀から 19 世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心に見ていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

２．キーワード

「都市史」「社会史」「文化史」「近世近代」「イギリス」「ロンドン」

３．到達目標

①歴史学の考え方を理解（30%）
②マクロ・ミクロ史を理解（40%）
③日本語による歴史記述を習得（30%）

４．授業計画

①ガイダンス
②歴史学方法論
③西洋中世都市モデル
④都市の人口規模比較
⑤個別事例　１成立過程
⑥　　２都市社会構造
⑦　　３社会分極化
⑧ 小テスト
⑨　　４都市文化
⑩　　５新興都市
⑪　　６都市化・工業化
⑫　　７貧困と福祉
⑬　　８植民地と都市
⑭　　９都市と外国人
⑮期末試験

５．評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト　20%　２問（各 10 点）
レポート　20%
期末テスト　60%　３問（25 点２問、30 点１問）

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習として VOD：『サイモン・シャーマの英国史　英語（日本語字幕版）７、８、11、14』（図書館 HP 参照）の視聴を勧める。

７．教科書・参考書

参考文献

イギリス都市•農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999 年。233.3Ⅲ-1Ⅲb

８．オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Mon1kit@aol.com　１限：Mon2kit@aol.com　２限

歴史学Ⅱ　History A Ⅱ （金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　水井　万里子

１．概要

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口１万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間が限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという３つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

２．キーワード

「都市史」「社会史」「比較史」「近世の首都」「ロンドン」「パリ」「江戸」

３．到達目標

①歴史学の考え方を理解（30%）
②マクロ・ミクロ史を理解（40%）
③日本語による歴史記述を習得（30%）

４．授業計画

①ガイダンス
②ヨーロッパとイギリス
③西洋中世都市モデル
④３つの首都の人口比較
⑤個別都市事例　江戸　　１成立過程
⑥　　２都市社会構造
⑦　　３身分制社会
⑧小テスト
⑨個別都市事例　パリ　　１成立過程
⑩　　２都市社会構造
⑪小テスト解説　　３宗教戦争
⑫個別都市事例　ロンドン１成立過程
⑬　　２都市社会構造
⑭　　３社会分極化
⑮期末試験

５．評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

レポート①　　20%
レポート②　　30%
期末テスト　　50%
60%以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。
なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史英語（日本語字幕版）11、14』（図書館HP参照）の視聴を勧める。

７．教科書・参考書

参考文献

イギリス都市•農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3Ⅲ-1Ⅲb

８．オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Fri2kit@aol.com

文学Ⅰ　Literature Ⅰ　（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　石井　和夫

１．概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つか、描かれた「都市」に焦点を当ててアプローチする。

●授業の目的

文章を読むための技術について理解を促す。反覆表現が作家の意識・無意識の読者に向けたサインになっている点を手がかりにする。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変らない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。

２．キーワード

読解　独創　社会

３．到達目標

１．文章理解を深めること。
２．時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
３．通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

４．授業計画

第１回　反覆表現読解の実例１（講義ガイダンス）
第２回　反覆表現読解の実例２
第３回　泉鏡花「夜行巡査」
第４回　樋口一葉「十三夜」
第５回　田山花袋「少女病」
第６回　国木田独歩「窮死」
第７回　中間試験（作文）
第８回　谷崎潤一郎「秘密」
第９回　志賀直哉「小僧の神様」
第10回　芥川龍之介「舞踏会」
第11回　梶井基次郎「檸檬」横光利一「街の底」
第12回　中野重治「交番前」堀辰雄「水族館」
第13回　江戸川乱歩「目羅博士」織田作之助「木の都」
第14回　三島由紀夫「橋づくし」大江健三郎「人間の羊」
第15回　筆記試験（期末試験）

５．評価方法・基準

出席点（10点）　中間試験（作文　800字）（10点）
期末試験（作文　800字）（80点）
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視
（３分の２以上出席しなければ期末試験は受けられない）。

７．教科書・参考書

●教科書

東郷克美・吉田司雄編『近代小説［ 都市 ］を読む』（双文社出版　2100円）913.6/T-187/2

●参考書

ガイダンス、および講義中にその都度指示する。

８．オフィスアワー

文学Ⅰ　Literature Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　荻原　桂子

１．概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつというも働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

２．キーワード

日本近代文学・夏目漱石

３．到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

４．授業計画

第１回　授業の説明。現代文学の紹介をとおして文学とはどのようなものかを考える。
第２回　樋口一葉『たけくらべ』
第３回　泉鏡花『高野聖』
第４回　島崎藤村『破戒』
第５回　夏目漱石『こころ』
第６回　森鷗外『高瀬舟』
第７回　芥川龍之介『奉教人の死』
第８回　宮沢賢治『よだかの星』
第９回　谷崎潤一郎『春琴抄』
第10回　川端康成『雪国』
第11回　太宰治『人間失格』
第12回　三島由紀夫『仮面の告白』
第13回　遠藤周作『海と毒薬』
第14回　まとめ・期末試験の説明。
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的態度状況（20％）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るので、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

７．教科書・参考書

●教科書

『 文学を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

８．オフィスアワー

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

文学Ⅱ　Literature Ⅱ（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　石井　和夫

１．概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

異界という概念を軸に人間の想像力の持つ意味をとらえる。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変らない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想•着想という広い視野から授業を位置づけたい。

２．キーワード

異界　想像力　臨界点

３．到達目標

１．文章理解を深めること。
２．時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
３．通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

４．授業計画

第１回　反覆表現読解の実例１（講義ガイダンス）
　　（印刷資料を用いて作品読解の方法にふれる。）
第２回　反覆表現読解の実例２
第３回　泉鏡花「龍潭譚」
第４回　永井荷風「狐」
第５回　佐藤春夫「西班牙犬の家」
第６回　谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
第７回　中間試験
第８回　芥川龍之介「奉教人の死」
第９回　江戸川乱歩「押絵と旅する男」夢野久作「瓶詰の地獄」
第10回　梶井基次郎「Kの昇天」萩原朔太郎「猫町」
第11回　中島敦「狐憑」井伏鱒二「へんろう宿」
第12回　太宰治「魚服記」岡本かの子「川」
第13回　川端康成「水月」
第14回　井上靖「補陀落渡海記」
第15回　筆記試験（期末試験）

５．評価方法・基準

出席点（10点）　中間試験（作文　800字）（10点）
期末試験（作文　800字）（80点）
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視
（３分の２以上出席しなければ期末試験は受けられない）。

７．教科書・参考書

●教科書

東郷克美・高橋広綱編『近代小説［異界］を読む』（双文社出版　2000円）913.6/T-195

●参考書

１）トドロフ『幻想文学』（ちくま学芸文庫）904/T-5
２）サルトル『想像力の問題』（人文書院）958/S-1/12-b

８．オフィスアワー

文学Ⅱ　Literature Ⅱ（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　荻原　桂子

１．概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、現代文学を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

２．キーワード

現代文学・読解力・思考力・表現力

３．到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読書力をつける。

４．授業計画

第１回　授業の説明。現代文学を読む意味について。
第２回　松本清張『或る「小倉日記」伝』
第３回　大江健三郎『死者の奢り』
第４回　中上健次『一九歳の地図』
第５回　宮本輝『蛍川』
第６回　村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』
第７回　山田詠美『ベッドタイムアイズ』
第８回　吉本ばなな『キッチン』
第９回　宮部みゆき『理由』
第10回　綿谷りさ『蹴りたい背中』
第11回　金原ひとみ『蛇にピアス』
第12回　川上弘美『神様』
第13回　村上春樹『１Ｑ８４』
第14回　まとめ・期末試験の説明。
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的態度（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るので、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

７．教科書・参考書

●教科書

『現代を読む』（花書院）

●参考書

授業中に紹介する。

８．オフィスアワー

九州女子大学　荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

心理学Ⅰ　Psychology Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　麦島　剛

１．概要

●授業の概要

心理学はこころの法則性についての実証的な学術である。その研究対象は多岐に及び、各々にふさわしい研究方法がある。このため、心理学は大きく二分される。一つは、実験研究によって実証する分野であり、知覚・認知・記憶・学習などが扱われる。もう一つは、調査や面接などによって実証する分野であり、教育・人間関係・産業社会・こころの不調などが扱われる。この授業では、前者の領域、つまり実験心理学について概説する。

●授業の目的

実験心理学の諸分野について満遍なく概観し、そのエッセンスを理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。

２．キーワード

実験心理学・知覚・認知・記憶・学習・生理心理学

３．到達目標

実験心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。

４．授業計画

第１回　オリエンテーション・こころのサイエンスとは？
第２回　心理学史
第３回　生理心理学１　神経系の構造と機能（１）
第４回　生理心理学２　神経系の構造と機能（２）
第５回　生理心理学３　神経系と意識・情動・記憶・思考との関係
第６回　ストレス理論１　生理学的ストレス理論
第７回　ストレス理論２　心理学的ストレス理論とストレスコーピング
第８回　知覚心理学１　視覚系の知覚　内的世界と外的世界は同一なのか？
第９回　知覚心理学２　聴覚系の知覚　音の精神物理学
第10回　認知心理学１　注意とその障害
第11回　認知心理学２　記憶とその障害
第12回　学習心理学１　学習の２つのプロセス
第13回　学習心理学２　学習理論の応用（臨床心理学やミクロ経済学への応用）
第14回　まとめ　実験心理学の今後の方向性
第15回　試験

５．評価方法・基準

試験 80％（中間の確認テストを含む）、出席 20％で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

７．教科書・参考書

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他 (2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレーン社　140/K-7/2

西本武彦他（2009）『現代心理学入門』川島書店

８．オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail（mugi@fukuoka-pu.ac.jp）にて受付。

心理学Ⅱ　Psychology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期　後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　今村　義臣

１．概要

●授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決してない。脳を知ることは、生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

●授業の目的

“意識とは何か”を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

●授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

２．キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

３．到達目標

①教育・社会系心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。
②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

４．授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　脳と心１　脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。
第３回　脳と心２
第４回　視覚的意識１　意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。
第５回　視覚的意識２
第６回　視覚的意識３
第７回　視覚的意識４
第８回　無意識の再考１　分割脳、幻肢、あるいは、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。
第９回　無意識の再考２
第10回　無意識の再考３
第11回　無意識の再考４
第12回　情動と意識１　意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。
第13回　情動と意識２
第14回　情動と意識３

５．評価方法・基準

期末試験で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

７．教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

適宜紹介する。

８．オフィスアワー

E-mail アドレス　gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp
月曜１・２限

心理学Ⅱ　Psychology Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　麦島　剛

１．概要

●授業の概要

近年の社会変化（格差社会への変化等）に伴う抑うつ・自殺・いじめなどの臨床心理学的問題がひろく注目されるようになった。また、ゆとり教育・習熟度別授業・特別支援学校（学級）など、教育をめぐる議論が盛んである。これらの問題の検討と解決のためには、確かな心理学理論の理解が必要となる。

心理学Ⅰが実験心理学の概説であるのに対し、本授業では教育・社会系心理学を概説する。

●授業の目的

教育・社会系心理学について理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。なお、前期に心理学Ⅰ（麦島）を受講しているほうが本授業を理解しやすいと思われる。

２．キーワード

発達心理学・人格・知能・臨床心理学・心理療法・社会心理学・組織心理学

３．到達目標

①教育・社会系心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。
②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

４．授業計画

第１回　オリエンテーション　こころの問題の高まりについて
第２回　発達心理学１　発達理論の基本
第３回　発達心理学２　ピアジェの理論を中心とした発達理論（１）
第４回　発達心理学３　ピアジェの理論を中心とした発達理論（２）
第５回　教育心理学　発達障害児への支援を中心に
第６回　人格と知能の心理学１　性格とは？
第７回　人格と知能の心理学２　知能とは？
第８回　臨床心理学１　精神病理学
第９回　臨床心理学２　各種の心理療法（１）
第10回　臨床心理学３　各種の心理療法（２）
第11回　社会心理学１　社会的認知
第12回　社会心理学２　対人行動
第13回　組織心理学　組織行動論に基づく成果主義的人事の検討
第14回　まとめ　心理学と現代社会
第15回　試験

５．評価方法・基準

試験80％（中間の確認テストを含む）、出席20％で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

７．教科書・参考書

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他（2000）『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレーン社　140/K-7/2

西本武彦他（2009）『現代心理学入門』川島書店

８．オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校E-mail（mugi@fukuoka-pu.ac.jp）にて受付。

教育心理学　Educational Psychology　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　今村　義臣

１．概要

●授業の背景

児童･生徒を指導･教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である．心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する．そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の１つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

２．キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

３．到達目標

①教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得すること。
②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

４．授業計画

１回　オリエンテーション
２回　発達１　こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
３回　発達２
４回　発達３
５回　学習１　学習の原理と学習指導について学ぶ。
６回　学習２
７回　学習３
８回　学級集団　学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
９回　知能　知能のメカニズムについて学ぶ。
10回　人格と適応１　人格と適応の諸理論を学ぶ。
11回　人格と適応２
12回　人格と適応３
13回　障害児１　障害児の心理と教育について学ぶ。
14回　障害児２
15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

７．教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

８．オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学Ⅰ　Pedagogy Ⅰ　（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

家族と教育に焦点を合わせる。普遍的な現象と考えられがちな家族であるが、その形態や機能は、時代や文化によって様々に変化する。本講義では､家族が有する形態や機能を理解したうえで、現代日本の家族を取り巻く諸問題について考察を深められるようにする。

●授業の位置付け

まず、時代及び文化による家族のあり方の多様性について講義する。その上で、現代我々が自明視している家族が登場する過程について概観する。そして、現代家族が持つ教育機能とともに、それを取り巻く多様な問題群について考察を深められるようにする。

２．キーワード

近代家族　少子化　性別役割分業

３．到達目標

①家族に関して相対的・批判的な思考方法を獲得できるようにする。
②現代家族を取り巻く諸問題について、自らの思考や考えを深められるようにする。
③それらを的確に表現できるようにする。

４．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

１回　家族の誕生
２回　日本近代家族の誕生
３回　結婚への途
４回　結婚を阻まれる人たち
５回　少子化は悪か？
６回　生殖技術と家族
７回　中絶と避妊のポリティクス
８回　「子をもつ」ということ
９回　青年期と家族
10回　児童虐待のポリティクス
11回　家族のリストラクチャリング
12回　現代の家族政策（１）－教育政策と家族ー
13回　現代の家族政策（２）－社会保障政策・労働政策ー
14回　新しい「家族」のカタチ
15回　試験

５．評価方法・基準

小レポート　　30％
期末レポート　70％

レポート評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

●講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
●最高裁判所のホームページなどを通して、家族に関する判例に目を通すこと。
●その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

７．教科書・参考書

●教科書　　特に指定しない。
●参考文献

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書 379.9/H-3
山田昌弘『パラサイトシングルの時代』ちくま新書 367.4/Y-1

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅰ　Pedagogy Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

現代日本の教育問題について、臨床教育社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している教育言説を相対化しうる視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床教育社会学という立場から教育問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

２．キーワード

教育問題・教育病理　臨床教育社会学　社会問題の構築主義

３．到達目標

①現代日本の教育問題に関する理解を深める。
②教育問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な教育言説を相対化する視点を得る。
③レポート課題を通して、文章表現能力を高める。

４．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料､視聴覚教材を適宜使用する。

１回　臨床教育社会学と社会問題の構築主義
２回　少年犯罪言説と少年法改正
３回　少年司法のポリティクス
４回　地域防犯活動と子どもの安全環境
５回　被害者なき犯罪
６回　淫行規制条例のポリティクス
７回　「有害メディア」規制のポリティクス
８回　ニートとは誰か？
９回　フリーターはフリーなのか？
10回　児童虐待と監視される家族
11回　不登校と公教育の揺らぎ
12回　いじめ自殺と子ども・家族・学校
13回　マイノリティと学校教育
14回　ジェンダーフリー教育論争
15回　試験

５．評価方法・基準

小レポート　　30％
期末レポート　70％

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
②最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・刑法に関する判例に目を通すこと。
③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

７．教科書・参考書

●教科書　　特に指定しない。
●参考文献

酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版会　375.9/H-4
浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社　368.6/H-2

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ　Pedagogy Ⅱ　（月曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

２．キーワード

子ども観　日本国憲法　子どもの権利条約　自己決定権　セクシュアリティ

３．到達目標

①子どもの相対性・構築性について理解すること。
②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
③それらを的確に表現できるようにすること。

４．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

１回　子どもの権利条約
２回　教育権論争
３回　教科書裁判
４回　義務教育就学拒否は可能か？
５回　国公立女子校に男子は入学できるのか？
６回　校則と自己決定権
７回　思想・信条の自由と学校
８回　神の掟と学校の掟
９回　内申書開示請求事件
10回　体罰と子どもの人権
11回　学校事故と過失犯
12回　学校事故と国賠請求事件
13回　いじめ自殺の家族・学校・子ども
14回　子どもとセクシュアリティ
15回　試験

５．評価方法・基準

小レポート　　30％
期末レポート　70％

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
②最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・教育法に関する判例に目を通すこと。
③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

７．教科書・参考書

●教科書　　特に指定しない。
●参考文献
東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版　367.6/H-3
佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社　本館　図書館 373.2/S-8

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ　Pedagogy Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的位置へと振り分ける選抜･配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

２．キーワード

選抜・配分　人材養成・人的資本論　教育投資　教育政策・教育改革　高等教育

３．到達目標

①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
③文章表現能力を身につけること。

４．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

１回　教育と社会・経済・政治
２回　個人的投資としての教育
３回　社会的投資としての教育
４回　途上国の教育問題
５回　高学歴化と職業構造の変化（１）
６回　高学歴化と職業構造の変化（２）
７回　採用への途
８回　ニートとは誰か？
９回　フリーターはフリーなのか？
10回　働く男、働く女
11回　日本型学歴主義の展開
12回　教育改革論（１）
13回　教育改革論（２）
14回　教育改革論（３）
15回　試験

５．評価方法・基準

小レポート　　30％
期末レポート　70％

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
②各大学のホームページや企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

７．教科書・参考書

●教科書　　特に指定しない。
●参考文献
マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書　377/T-3
天野郁夫『学歴の社会史』UP 選書　372.1/A-3

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理　Principle of Education （月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い､次の点を目標とする。

①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。

②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。

③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。

④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の３つの柱からなる。

①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。

②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。

③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

２．キーワード

子ども観・教育観　生涯発達・生涯学習　初等教育・中等教育　職業教育　教育問題

３．到達目標

① 自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。

② 多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

③それらを的確に表現できるようにする。

４．授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

１回　「教育」及びその近接概念について
２回　教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
３回　教授法の変遷に見る教育観
４回　「子ども」と「大人」の思想史
５回　教育と子育て
６回　諸外国及び日本の学校教育制度の概要
７回　近代日本の教育の歴史と法制
８回　初等教育の現状と課題
９回　中等教育の現状と課題
10回　家族・学校・地域の連携
11回　不登校といじめ
12回　児童虐待
13回　少年非行
14回　現代教育の再構築-情報化社会と生涯学習-
15回　試験

５．評価方法・基準

小レポート　　30％
期末テスト　　70％

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。

③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

７．教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他　　『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一　　『やさしい教育原理』371/T-4

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学　Sociology of Education （月曜１限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い､以下の点を目標とする。

①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の３つの柱からなる。

①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

２．キーワード

文化伝達・文化的再生産　エスニシティ　ジェンダー　サブカルチャー　教育制度・教育政策　学校経営・学級経営

３．到達目標

①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

４．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

１回　文化伝達としての教育－育児としつけ－
２回　文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
３回　エスニシティと教育－人種、民族、国家－
４回　ジェンダーと教育
５回　メディアと教育
６回　子ども文化の変遷と現在
７回　若者文化の変遷と現在
８回　少年非行の社会学
９回　学校文化・教師文化・生徒文化
10回　学力とカリキュラムの社会学
11回　学校教育と職業
12回　教育政策の変遷と現在
13回　学校経営の現代的課題（１）
14回　学校経営の現代的課題（２）
15回　試験

５．評価方法・基準

成績評価

小レポート　　30％
期末テスト　　70％

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

７．教科書・参考書

●教科書　　特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

苅谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/S-8
柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 376.3/S-3

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学　Introduction to Japanese Law （月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　小野　憲昭

１．概要

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

２．キーワード

規範 、秩序、権利、責任、救済

３．到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになれること。

４．授業計画

第１回　法学を学ぶ意味、法の世界観
第２回　法律とは何か、判例とは何か
第３回　法源、主要法典、法適用の原則を知る。
第４回　法律の解釈の仕方を知る①
第５回　法律の解釈の仕方を知る②
第６回　私法入門―民法の指導原理
第７回　民法上の権利
第８回　権利の限界―私権の公共性
第９回　権利の担い手としての資格①
第10回　権利の担い手としての資格②
第11回　権利の対象となる財産
第12回　取引行為と法①
第13回　取引行為と法②
第14回　取引行為と法③

５．評価方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

７．教科書・参考書

●教科書

１）五十嵐 清著 私法入門［改訂３版］有斐閣 324/I-2
２）石川他編集代表『法学六法’10』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

１）中川 善之助著 泉 久雄補訂［補訂版］法学 日本評論社 321/N-8
２）佐藤幸治他著『法律学入門〔第３版〕』有斐閣 321/S-6
３）我妻栄＝有泉亨＝川井健『民法第２版１総則・物権法』勁草書房 324
４）川井　健　『民法総則第３版』有斐閣 324

８．オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法　Constitutional Law in Japan （月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　小野　憲昭

１．概要

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は、政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは、政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

２．キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

３．到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっているのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

４．授業計画

第１回　国家と法
第２回　憲法の意味・特質
第３回　日本憲法史
第４回　国民主権の原理
第５回　基本的人権の原理
第６回　法の下の平等・生命・自由・幸福追求
第７回　内心の自由
第８回　表現の自由
第９回　経済的自由
第10回　人身の自由
第11回　参政権・社会権
第12回　平和主義の原理
第13回　国家統治の機構①－国会・内閣
第14回　国家統治の機構③－裁判所・憲法保障

５．評価方法・基準

期末試験の結果（100%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

７．教科書・参考書

●教科書

１）伊藤 正巳 著 憲法入門〔第４版〕有斐閣 323.1/I-17
２）石川他編集代表『法学六法' 10』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

１）清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第３版〕有斐閣 323.1/K-12/1
２）宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕 有斐閣 323.1/K-12/2
３）佐藤 功　 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
４）芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

８．オフィスアワー

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ　Sociology Ⅰ （月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

いつの時代にもまして現代を危機的な時代と捉える見方がある。人類はそのように危機にみまわれる時代を、できるだけ客観的に捉える努力してきた。人間と社会現象を観察し、記述し、そしてそこに規則性を発見することである。それは。それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

社会学の諸理論、すなわち行為理論、コミュニケーション理論、相互作用論、集団理論、社会階層理論、紛争理論、集合行動理論、資源配分理論、逸脱と統制の理論、社会的選択理論などを学び、それらの応用によって、マスコミ、経済、政治、家族、ジェンダー、社会階層、民族、都市、医療、教育などについて知識をふやし、かつそれらの社会学的な分析と表現の力を習得することを目的とする。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日１限と２限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会学的な知識と分析を実践し、論理的な思考と表現の力をつけることを促すような編成となっている。

２．キーワード

動機、価値志向、合理的選択、集合行動、意図せざる結果

３．到達目標

①社会学の基礎概念と理論の基礎を習得すること
②マスコミ、社会階層、社会組織、教育、福祉、犯罪などの基礎知識をえること
③それらを社会学的に分析し議論する力を習得すること

４．授業計画

第１回　導入講義
第２回　個人と集団と国家（１）
第３回　マスコミ
第４回　経済と社会
第５回　政治と社会
第６回　格差と社会階層
第７回　ジェンダー
第８回　教育
第９回　医療
第10回　自殺
第11回　犯罪
第12回　都市
第13回　家族
第14回　福祉社会
第15回　個人と集団と国家（２）

５．評価方法・基準

中間試験（30%）、期末試験（50%）、レポート（20%）によって評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

７．教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（総合教育棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅰ　Sociology Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

人間行動と社会をできるだけ科学的に捉えようとする人類の長い精神史がある。社会科学の重要な努力の一つは、社会現象を量的に測定し、さらにそこに規則性を発見することにある。それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である計量社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

前期に引き続き、社会を計量社会学的にとらえる方法を学ぶ。測定、確率、平均、分散などの基礎概念の理解、社会調査の基本的な枠組み、クロス表分析、回帰分析、分散分析の理論と技法の基礎を学習し、その応用を具体的なデータを用いて学び、それらを通して現代社会の仕組みを理解することが、目的である。

●授業の位置づけ

これは金曜日の２限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

２．キーワード

社会調査、クロス表分析、回帰分析、検定、分散分析

３．到達目標

①人間行動と社会を測定するということの理解
②確率、平均、分散などの基本概念の理解
③社会調査の一つとしての標本調査の理論と技法の理解
④回帰分析の理論の理解と技法の習得
⑤クロス表分析の理論の理解と技法の習得
⑥検定の理論の理解と技法の習得
⑦分散分析の理論の理解と技法の習得

４．授業計画

第１回　人間行動と社会の測定
第２回　確率
第３回　確率
第４回　平均と分散
第５回　社会調査
第６回　社会調査
第７回　回帰分析
第８回　回帰分析
第９回　クロス表の分析
第10回　クロス表の分析
第11回　検定
第12回　検定
第14回　分散分析
第15回　分散分析

５．評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（30%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。授業では演習での課題達成とプレゼンテーションが要求される。なお統計学にたいする好奇心を前提とする。

７．教科書・参考書

授業の最初、また期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（総合教育棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅱ　Sociology Ⅱ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

一方で現代社会は安定した集合表象やその高度の構造体である科学、芸術、道徳・法、宗教をもつといわれ、他方では変化し続ける表象と意識、またぶつかりあう価値観の衝突と葛藤が顕著な社会といわれる。そのような状況が文化について考える講義の背景である。

●授業の目的

（１）文化の諸領域・諸側面をできるだけ具体的に見聞し、それらについて議論できるようになること、（２）その文化の内部構造と変遷についての経験的・理論的な理解を深め、それらについて議論できるようになること、（３）最後に文化と社会の関連についての経験的・理論的な理解を深め、それについて議論できるようになること。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ選択必修科目の一つとして、月曜日１限と２限に開講される。この授業を通して、文化と人間（社会）についての知識と理論を習得し、そしてそれらを議論するための論理的な思考力を習得することができるように、授業を編成している。

２．キーワード

文化、デカルト主義、パーソンズのスキーム、ベルのジレンマ、正統と非正統、集合表象、記憶

３．到達目標

①T.パーソンズの文化の概念の理解
②科学の中核にあるデカルト主義と合理主義の理解
③ルネサンス期など、芸術史上のいくつかの転回の理解
④祭、スポーツ、ファッション、美術、音楽、映画の構築と社会的機能の理解
⑤法と道徳の機能の理解
⑥現代の集合表象あるいは価値意識の闘争の理解
⑦現代正義論の理解
⑧宗教の諸様式と機能の理解

５．評価方法・基準

第１回　導入（文化の概念）
第２回　科学と技術
第３回　デカルト主義の未来
第４回　芸術的表象
第５回　音楽と美術
第６回　祭りとスポーツ
第７回　ファッションの記号論
第８回　映画
第９回　法と道徳
第10回　集合表象の亀裂と闘争
第12回　象徴と権力
第13回　正義論の行方
第14回　宗教
第15回　個人と集団の記憶

５．評価方法・基準

中間試験（30%）、期末試験（50%）、レポート（20%）によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

７．教科書・参考書

授業の最初に、また期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（総合教育棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅱ　Sociology Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

人間行動と社会をできるだけ科学的に捉えようとする人類の長い精神史がある。社会科学の重要な努力の一つは、社会現象を量的に測定し、さらにそこに規則性を発見することにある。それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である計量社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

前期に引き続き、社会を計量社会学的にとらえる方法を学ぶ。前期よりさらにレベルを高くし、多変量解析の理論と技法を社会学データの分析の実践を通して実践的に学ぶこと、そしてそれを媒介に現代社会の仕組みを理解することが、目的である。

●授業の位置づけ

これは金曜日の２限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

２．キーワード

社会調査、因子分析、多次元尺度法、ログリニア分析、分散共分散分析

３．到達目標

①人間行動と社会を測定するということの理解
②確率、平均、分散などの基本概念の理解
③推定と検定の理論の理解
④因子分析、クラスター分析、多次元尺度法などのデータ縮約の理論と技法の理解
⑤分散分析、回帰分析、ログリニア分析などのメカニズム解明を支援する方法の理論と技法の理解

５．評価方法・基準

第１回　人間行動と社会の測定
第２回　社会調査
第３回　平均と分散
第４回　推定と検定
第５回　因子分析
第６回　クラスター分析
第７回　多次元尺度法
第８回　多次元尺度法
第９回　多重分散分析
第10回　多重回帰分析
第11回　多重回帰分析
第12回　ログリニア分析
第13回　ログリニア分析
第14回　分散共分散分析
第15回　分散共分散分析

５．評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（20%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。予習・復習と、授業での演習及びプレゼンテーションが要求される。なお統計学にたいする好奇心を前提とする。

７．教科書・参考書

授業の最初と、期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（総合教育棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

経済学Ⅰ　Economics Ⅰ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

一国の経済における諸問題及び政府の経済政策を理解するためには経済学、特にマクロ経済学の知識が必要である。本講義ではマクロ経済学の標準的なテーマを取扱う。特に、戦後から現在に至るまでの日本経済の足跡を経済政策とその政策の背景にある経済理論を中心に考察することによってマクロ経済学に対する理解を深める。さらに、これらをベースに国際経済に関する基本理論を学び、日本経済と国際経済の将来について考えてみることが本講義の目的である。

●授業の位置付け

最近、国際化や情報化の進展に伴い、経済システムも益々複雑になっており、また経済に関する情報も簡単に入手できるようになった。しかしながら、その内容を理解して、それに対し自分なりの判断ができる人は意外と多くないと思われる。国内外の経済現状を理解するためには本授業で取り扱う諸理論に関する全般的な理解が必要である。

２．キーワード

「GDP」、「財政」、「金融」、「為替」、「景気」

３．到達目標

①一国の経済の仕組みを学ぶことによって国際経済のメカニズムを理解する。
②現在われわれが直面している経済問題を分析し、問題解決の糸口を見出す力を養う。

４．授業計画

１回　オリエンテーション
２回　戦後からの日本経済の歩み　①
３回　戦後からの日本経済の歩み　②
４回　国民経済計算　①
５回　国民経済計算　②
６回　財市場　①
７回　財市場　②
８回　貨幣市場①
９回　貨幣市場②
10回　財政金融政策　①
11回　財政金融政策　②
12回　国際経済　①
13回　国際経済　②
14回　まとめ

５．評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅰ　Economics Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

経済活動を営む各主体はお互いに影響を与えながら様々な意思決定を行っている。本講義では、「ゲーム理論」を通じてその意思決定の相互依存について考察する。特に、実際の経済社会で発生している様々な事例を取り上げ、戦略的思考に対する理解を深めることによって経済主体として合理的な意思決定能力の向上を目指す。

●授業の位置付け

複数の経済主体がそれぞれの目的の実現を目指して相互に依存している状況を認識し、そのような状況の下で戦略的思考法に基づく意思決定のメカニズムを理解する。

２．キーワード

「戦略的思考」、「意思決定」、「不確実性」

３．到達目標

①ゲーム理論の基礎を学び、戦略的行動とは何かを理解する。
②様々な経済現象に対して合理的な判断ができる思考力を養う。

４．授業計画

１回　オリエンテーション：市場と経済
２回　ゲーム理論の基礎
３回　戦略型ゲーム
４回　戦略的思考法
５回　展開型ゲーム①
６回　展開型ゲーム②
７回　交渉ゲーム①
８回　交渉ゲーム②
９回　繰り返しゲーム
10回　情報とゲーム①
11回　情報とゲーム②
12回　情報とゲーム③
13回　経済学とゲーム理論
14回　まとめ

５．評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ　Economics Ⅱ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

経済を理解するにあたって最も重要なのは市場メカニズムに対する理解である。本授業ではまず、経済主体の行動理論、特に消費者の行動や生産者の行動に関する理論を学んだ上、その理論に基づいて機能している市場メカニズムについて学ぶ。また、その市場が不完全競争状態である場合どのような問題が発生するか、そして実際われわれが住んでいる社会が抱えている市場構造の問題点について考察する。

●授業の位置付け

近年、社会における様々な現象を分析する研究分野において経済学の概念を導入することが増えている。特に、都市、交通、環境などの分野では費用便益分析、ヘドニック・アプローチやゲーム理論のような経済理論が頻繁に利用されるようになった。これらの経済理論を有効に使用するためには、本授業で取り扱う経済主体の行動理論や市場理論を理解することが不可欠である。

２．キーワード

「効用最大化」、「利潤最大化」、「市場メカニズム」、「不完全競争市場」

３．到達目標

①各経済主体の合理的な行動原理について理解する。
②各経済主体の行動が市場の形成や既存市場に与える影響について理解する。
③様々な経済問題を常に市場メカニズムに基づいて考える能力を培う。

４．授業計画

１回　オリエンテーション
２回　市場とは何か
３回　需要と供給のメカニズム
４回　消費者の行動原理　①
５回　消費者の行動原理　②
６回　生産者の行動原理　①
７回　生産者の行動原理　②
８回　市場均衡の理論
９回　不完全競争市場　①
10回　不完全競争市場　②
11回　公共財と外部性
12回　効率性と公正
13回　市場理論の応用
14回　まとめ

５．評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ　Economics Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

本講義は、新聞やテレビで日々報道されている経済現象を正しく理解するために必要な経済学の基礎知識の習得を目的とする。特に、経済記事や経済関連統計データを用いて日本や世界の経済動向に対する理解を深め、経済主体が実際に直面する様々な経済現象を広い視野をもって分析・判断する能力を養う。

●授業の位置付け

日本や世界経済と関連する時事トピックスとそれに対する経済専門家や政府関係者のコメントを理解し、今我々が置かれている経済状況を分析・判断するために必要な知識を学ぶ。

２．キーワード

「時事経済」、「経済政策」、「日本と世界経済」

３．到達目標

①経済関連の統計データを収集・分析し、経済の現況を理解する。
②時事トピックスを取り上げ、その背景にある経済理論を理解する。

４．授業計画

１回　オリエンテーション
２回　マクロ統計と経済の動向　①
３回　マクロ統計と経済の動向　②
４回　マクロ統計と経済の動向　③
５回　経済政策　①
６回　経済政策　②
７回　経済政策　③
８回　企業と経済　①
９回　企業と経済　②
10回　日本経済　①
11回　日本経済　②
12回　日本と世界　①
13回　日本と世界　②
14回　まとめ

５．評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

政治学Ⅰ　Political Science Ⅰ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

２．キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
第３回　ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
第４回　「鉄の三角形」の意味と概要
第５回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（１）
第６回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（２）
第７回　政官関係・公益法人論など
第８回　戦争と政治（１）
第９回　戦争と政治（２）
第10回　従来の講義の補足と展開
第11回　ナショナリズム論（１）
第12回　ナショナリズム論（２）
第13回　市民的実践とNGO（１）
第14回　市民的実践とNGO（２）
第15回　試験

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

５．評価方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

７．教科書・参考書

●教科書　　なし。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日 12 時－ 13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ　Political Science Ⅰ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

２．キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　予備的な講義とディスカッション
第３回　自由主義と民主主義（１）
第４回　自由主義と民主主義（２）
第５回　現実主義（１）
第６回　現実主義（２）
第７回　従来の講義の補足と展開
第８回　政治的責任（１）
第９回　政治的責任（２）
第10回　保守主義（１）
第11回　保守主義（２）
第12回　従来の講義の補足と展開
第13回　自由テーマ（１）
第14回　自由テーマ（２）
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

５．評価方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

７．教科書・参考書

●教科書　　なし。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日 12 時－ 13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ　Political Science Ⅱ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

２．キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義。

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　教育と政治、民主主義との関連など
第３回　教育と政治、ケース・スタディ（１）
第４回　教育と政治、ケース・スタディ（２）
第５回　教育と政治、ケース・スタディ（３）
第６回　補足と展開
第７回　開発と補助金政治
第８回　開発と地方地方自治
第９回　戦争責任論
第10回　開発をめぐる国際政治（１）
第11回　開発をめぐる国際政治（２）
第12回　軍事化と平和研究（１）
第13回　軍事化と平和研究（２）
第14回　開発教育論など
第15回　試験

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

５．評価方法・基準

期末試験（80％）およびレポートの結果（20％）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

７．教科書・参考書

●教科書　　なし。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日 12 時－ 13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ　Political Science Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下での現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

２．キーワード

ナショリナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　予備的な講義とディスカッション
第３回　ナショリナリズム（１）
第４回　ナショリナリズム（２）
第５回　ナショリナリズム（３）
第６回　文明の衝突？（１）
第７回　文明の衝突？（２）
第８回　文明の衝突？（３）
第９回　従来の講義の補足と展開
第10回　多元主義（１）
第11回　多元主義（２）
第12回　多元主義（３）
第13回　自由テーマ（１）
第14回　自由テーマ（２）
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テクストなどの要素を考慮して変更することがある。

５．評価方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

７．教科書・参考書

●教科書　　なし。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ　Regional Studies Ⅰ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　成末　繁郎

１．概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

２．キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

３．到達目標

①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

４．授業計画

第１回　「文化」という概念の定義
第２回　文化相対主義の問題点
第３回　象徴人類学から見た文化の概念
第４回　グローバル化を考える１　Hip-Hopの感染力その１
第５回　親族の解釈学１-親族分類の多様性、概念整理
第６回　親族の解釈学２-普遍的な解釈（親族の代数学）
第７回　親族の解釈学３-相対的な解釈
第８回　グローバル化を考える２　アイドルの普遍性その１
第９回　結婚の多様性と結婚の「本質」
第10回　インセスト・タブーの多様性
第11回　インセスト・タブーの存在理由
第12回　グローバル化を考える３　ロックの浸透力その１
第13回　世界観パート１-構造主義入門：親族の基本構造分析
第14回　世界観パート２-構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験及びレポート（95％）、出席（５％）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

７．教科書・参考書

●教科書
特になし。適宜プリントを配布する。
●参考書
１）Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press.
２）Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc.
３）E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

８．オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ　Regional Studies Ⅰ　（金曜日２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：前期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　成末　繁郎

１．概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

２．キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

３．到達目標

①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

４．授業計画

第１回　フィールド・ワークの方法論１：理論編
第２回　フィールド・ワークの方法論２：実践編
第３回　ニューギニアのダリビ族の民族誌：アナロジックな親族
第４回　ニューギニアのダリビ族の民族誌（続き）
第５回　ニューギニアのGimi族の民族誌：交代するジェンダー
第６回　ニューギニアのPaiela族の民族誌：女が成長のエージェント
第７回　ニューギニアのHagenの人々の民族誌：アナロジックなジェンダー
第８回　グローバル化を考える１　Hip-Hopの感染力その１
第９回　ニューギニアのHagenの人々の民族誌（続き）
第10回　ニューギニアのpersonの概念とagentの概念：市場交換システムと贈与交換システム
第11回　東南アジアの民族誌：イントロダクション
第12回　グローバル化を考える２　アイドルの普遍性その１
第13回　東北タイ：生活世界分類と民族生物分類学１
第14回　東北タイ：生活分類と民族生物分類学２
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（５%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

１）Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
２）Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
３）E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂。
４）Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

８．オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ　Regional Studies Ⅱ　（月曜１・２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：１・２年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　成末　繁郎

１．概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

２．キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

３．到達目標

①相対主義的に考えるdisposition を身につけること。
②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

４．授業計画

第１回　ジェンダー　パート１：定義と歴史的背景及びフェミニズムとの関係
第２回　ジェンダー　パート２：その多様性と解釈
第３回　ジェンダー　パート３：ポスト・モダンのジェンダー論
第４回　イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ上映
第５回　宗教　パート１：宗教の定義を巡って
第６回　宗教　パート２：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
第７回　宗教　パート３：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
第８回　グローバル化を考える４　Hip-Hopの感染力その２
第９回　事例研究１　東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
第10回　事例研究２　北部タイの精霊信仰－祖先の祟りを巡って－
第11回　事例研究３　ニューギニアのホログラフィックな世界－隠喩のフォース－
第12回　グローバル化を考える５　ロックの浸透力その２
第13回　植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
第14回　東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（５％）で評価する。60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

１）Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.
２）Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
３）Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with SocietyinMelanesia. University of California Press.

８．オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ　Regional Studies Ⅱ　（金曜２限）

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３年次
学期：後期　単位区分：選択必修　単位数：２単位
担当教員名　　成末　繁郎

１．概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

２．キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

３．到達目標

①相対主義的に考えるdisposition を身につけること。
②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

４．授業計画

第１回　宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
第２回　呪術論基礎（１）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
第３回　呪術論基礎（２）－呪術の効果を巡って。
第４回　グローバル化を考える３　Hip-Hopの感染力その２
第５回　事例検討１：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
第６回　事例検討２：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の妖術を中心に。因果関係とは何か。
第７回　事例検討３：言語行為論-アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
第８回　グローバル化を考える４　ロックの浸透力
第９回　事例検討４：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
第10回　事例検討５：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
第11回　事例検討６：北部タイの精霊信仰２：妖術と祖先霊
第12回　東南アジアの国家論①-19世紀バリの都市国家：劇場国家論。
第13回　東南アジアの国家論②-タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論
第14回　総括
第15回　試験

５．評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（５%）で評価する。
60 点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

１）Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.
２）Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
３）E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

８．オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ　Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

２．キーワード

思考停止、法令遵守

３．到達目標

・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

４．授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第１回～第３回　食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止
第４回～第６回　思考停止するマスメディア
第７回～第９回　厚生年金記録改竄を巡る思考停止
第10回～第12回　「遵守」はなぜ思考停止につながるのか
第13回～第15回　司法への市民参加を巡る思考停止

５．評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

７．教科書・参考書

郷原信郎　『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

８．オフィスアワー

月曜日：15：00 ～ 16：00

哲学と現代Ⅱ　Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　中村　雅之

１．概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

２．キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

３．到達目標

・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

４．授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第１回～第２回　ニセ科学
第３回～第５回　自然志向の罠
第６回～第９回　警鐘報道の功罪
第10回～第15回　科学報道のメディア・リテラシー

５．評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

７．教科書・参考書

松永和紀　『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

８．オフィスアワー

月曜日：15：00 ～ 16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ　History of European Society

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期・後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　水井　万里子

１．概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18 世紀末から 19 世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート１、２（以下 PR １・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計３本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

２．キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

３．到達目標

＜レポートに関する目標＞
①文献調査
②資料分析
③プレゼンテーション（２回）
④オリジナリティ：独自の議論
⑤プログレス（PR2とFRのみ）
＜個別発表に関する目標＞
①簡潔明瞭な発表
②的確な質疑

４．授業計画

①テーマ登録
②調査ガイド（文献検索について）
③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
④プログレスレポート１提出
⑤レポート返却とコメント
⑥個別発表
⑦個別発表
⑧個別発表
⑨個別発表
⑩プログレスレポート２提出
⑪レポート返却とコメント
⑫個別発表
⑬個別発表
⑭ファイナルレポート提出

５．評価方法・基準

プログレス・レポート１	25%	
	（上記レポート目標①から④各 25%）	
プログレス・レポート２	30%	（①から⑤各 20%）
ファイナル・レポート	40%	（①から⑤各 20%）
発表および質疑	５％	

＊総合評価 60%以上が合格

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

７．教科書・参考書

ヨハン•ベックマン『西洋事物起源１－４』岩波文庫、1999 年。
502/B-4/1 ～ 3
（担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出）

８．オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ　Japanese Politics、Past and Present Ⅰ

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

２．キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　人間性と政治（権力分立の問題など）
第３回　自由・人権観
第４回　戦後社会と管理化（１）
第５回　戦後社会と管理化（２）
第６回　戦後社会と管理化（３）
第７回　東北アジアと日本（１）
第８回　東北アジアと日本（２）
第９回　東北アジアと日本（３）
第10回　補足と展開
第11回　琉球・沖縄と日本（１）
第12回　琉球・沖縄と日本（２）
第13回　宗教と政治（１）
第14回　宗教と政治（２）
第15回　戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテクストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

５．評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論――独断や印象批評の応酬ではなく――を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力(知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテクストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

７．教科書・参考書

●教科書　　プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ　Japanese Politics、Past and Present Ⅱ

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　本田　逸夫

１．概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は､会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

２．キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

３．到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

４．授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　自由主義論（１）
第３回　自由主義論（２）
第４回　諸文明と「国際化」（１）
第５回　諸文明と「国際化」（２）
第６回　諸文明と「国際化」（３）
第７回　市民社会論（１）
第８回　市民社会論（２）
第９回　市民社会論（３）
第10回　補足と展開
第11回　厚生行政をめぐる政治（１）
第12回　厚生行政をめぐる政治（２）
第13回　厚生行政をめぐる政治（３）
第14回　政治的リアリズム
第15回　日本の戦後政治史をめぐって

ただし、学生諸君の関心やテクストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

５．評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論――独断や印象批評の応酬ではなく――を活発に行なうことなどが､求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテクストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

７．教科書・参考書

●教科書　　プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

社会システム論Ⅰ　Social Systems Theories Ⅰ

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

社会に現れる競争、闘争、交換、協同などを合理的選択行為の理論とゲーム理論の枠組みによって捉え、そこからさらに制度や権力や社会構造の発生のメカニズムを理解しようとする努力は、20世紀後半からの大きな潮流の一つである。

●授業の目的

ゲーム理論の基礎概念と基礎理論を学び、その応用によって社会を分析する力を習得すること、そしてそれを通して現代社会にかんする視野を広げることを目的としている。

●授業の位置づけ

この授業は社会学の中・上級科目として位置づけられ、金曜日の３限に開講される。

２．キーワード

合理的選択、ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、部分ゲーム完全均衡

３．到達目標

①非協力ゲームの理論の基礎概念と基礎理論の学習、
②交渉、契約、合意形成のメカニズムの理解、
③協力ゲームの理解

４．授業計画

第１回　合理的選択と人間行為
第２回　同時決定の場合の標準形ゲーム
第３回　囚人のジレンマ
第４回　混合戦略
第５回　情報と展開形のゲーム
第６回　駆け引きとコミットメント
第７回　2段階ゲーム
第８回　繰り返しゲーム
第９回　情報不完備ゲーム
第10回　スクリーニングとシグナリング
第11回　共有地の悲劇
第12回　社会的ジレンマ
第13回　交渉と契約
第14回　協力ゲーム
第15回　制度と権力

５．評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（30%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

７．教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（共通教育研究棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会システム論Ⅱ　Social Systems Theories Ⅱ

対象学科（コース）：全学科　　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　井上　寛

１．概要

●授業の背景

ばらばらの個人からなる社会でもなく、また強い規範と規則と垂直的な構造をもつ公式組織からなる社会でもなく、人と人、集団と集団がネットワークを形成し、それによってコミュニケーションと交換と協同が実現し、さらにどのネットワークが動的に変化していくような社会を描くことが、20世紀後半からの一つの思潮である。

●授業の目的

社会ネットワーク理論を学び、ネットワークの視点から社会過程と社会構造の分析の力を習得し、さらにそれを通して現代社会にかんする視野を広げることを目的とする。

●授業の位置づけ

この授業は社会学の中・上級科目として位置づけられ、金曜日の３限に開講される。

２．キーワード

ネットワーク、中心度、クリーク、ブロックモデル、構造ホール、ネットワーク複合、ネットワーク形成、ネットワークゲーム

３．到達目標

①社会ネットワーク理論の基礎概念と基礎理論を学びこと
②社会ネットワークの理論と技法によって社会関係と社会構造を分析する能力を修得すること

４．授業計画

第１回　社会過程とネットワーク構造
第２回　グラフ理論の基礎
第３回　中心性
第４回　クリーク
第５回　バランス理論
第６回　ブロックモデル
第７回　弱い紐帯の理論
第８回　ｐ*系のモデル
第９回　偏ネットワーク
第10回　ランダムネットワーク
第11回　スモールワールド
第12回　多重ネットワーク
第13回　ネットワーク制約のもとのゲーム
第14回　ゲームとネットワーク変動・形成
第15回　ゲームとネットワーク変動・形成

５．評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（30%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

７．教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

８．オフィスアワー

井上の研究室（共通教育研究棟３階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

都市経済学　Urban Economics

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

戦後、世界各国において都市化が急速に進行しており、日本の場合人口の約７割以上が都市に居住している。本授業では、我々の経済活動の中心になっている都市を経済学の観点から考える。特に、都市経済学の理論や分析手法を習得することによって都市の形成・立地問題をはじめ、様々な都市問題を考えると同時にその政策に対する理解を深める。

●授業の位置付け

政府や住民が都市に居住しながら直面している様々な問題を理解し、その解決策を考える上で必要な基礎知識を学ぶ。また、外国書（英語）を輪読することによって都市経済学の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

２．キーワード

「都市化」、「都市問題」

３．到達目標

①都市経済学の基本的な考え方や理論の理解
②都市問題に対する諸政策の理解

４．授業計画

① Definitions of Cities and Urban Growth
② Aggregate Analysis of Metropolitan Areas
③ Land Use Controls
④ Housing problems and Policies

５．評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命［ 英語（日本語字幕入り）版］の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

W. T. Bogart（1998）, The Economics of Cities and Suburbs, Prentice Hall. の一部を随時配布する。

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

産業と規制の経済学　Industrial Organization

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　李　友炯

１．概要

●授業の目的

本講義では、産業組織論における多様なテーマを取り扱い、現代の産業や企業の行動を理解するための基礎知識を習得する。特に、「市場メカニズム」の意義と役割に対する理解を通じて、産業組織の問題点やその対策について考察する。

●授業の位置付け

市場の構造や産業政策の影響などを供給サイドから分析することによって市場が有効に機能するために必要な条件に対する理解を深める。また、外国書（英語）を輪読することによって産業組織論の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

２．キーワード

「産業政策」、「企業」、「市場」、「規制」

３．到達目標

①市場経済のメカニズムを産業組織の状況や理論を通じて理解する。
②政府による規制など産業政策の重要性を理解する。

４．授業計画

① What Is Industrial Organization?
② Market Structures and Market power
③ Perfect Competiton, Monopoly and Oligopoly
④ Government Policies and their effects

５．評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命［ 英語（日本語字幕入り）版］の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

７．教科書・参考書

L.B.Cabral (2000), Introduction to Industrial Organization, Yhe MIT Press, D.W.Carlton and J.M.Perloff (2005), Mordern Industrial Organization の一部を随時配布する

８．オフィスアワー

火曜日 14：00 ～ 16：00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

教育システム論　Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　東野　充成

１．概要

●授業の目的

教育システムは､それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

２．キーワード

日本国憲法　教育基本法　教育権　少年法

３．到達目標

①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
③討論の技術を身につける。

４．授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、１回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

１回　オリエンテーション
２回　校則問題
３回　学校とプライバシー
４回　法の下の平等と教育（１）－同和教育論－
５回　法の下の平等と教育（２）－外国人児童生徒の教育－
６回　法の下の平等と教育（３）－障害児教育論－
７回　生命倫理と子ども（１）－非嫡出子問題－
８回　生命倫理と子ども（２）－生殖医療問題－
９回　生命倫理と子ども（３）－中絶問題－
10回　日の丸・君が代と学校
11回　エホバの証人剣道受講拒否事件
12回　教科書検定裁判
13回　旭川学力テスト事件
14回　パターナリズム論
15回　まとめ

５．評価方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度　50%
期末レポート　50%

プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

● 授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
● その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

授業の中で適宜指定する。

８．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

科学日本語　Basic Technical Writing

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：１単位
担当教員名　　アプドゥハン　恭子・橘　武史

１．概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら話を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

２年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べることができるようになりたいと思う学生を対象とする。初めから書ける必要はない。ただし、他人の意図を理解しようとして聴く力が必須である。

２．キーワード

「科学技術」「要旨」「意見文」「根拠」「エンジニア 」

３．到達目標

・キーワードや段落構成を考えながら要旨が書ける
・根拠に基づいて自分の意見が述べられる
・技術の背景や将来性についてより広い見方ができる
・エンジニアとして必要なコミュニケーション能力に関して自己評価ができる

４．授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは特別講義を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士の）評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の意見をまとめる練習をする。また、第１、４、８回にはエンジニアとして実際に遭遇する場面例を紹介し、そこでどのような資質が求められるかなどについても議論する。

第１回　オリエンテーション：まずやってみる；日本語で科学はできない？
第２回　要約のしかた（１）キーワードを探す；バイオメトリクス認証
第３回　要約のしかた（２）段落を作る；安全技術車
第４回　要約のしかた（３）中心文を置く；折り紙の不思議
第５回　要約のしかた（４）まとめの書き方；ペットボトルリサイクル
第６回　意見を書く（１）感想から出発；スペースシャトル事故
第７回　意見を書く（２）どこに注目するか；無人ＩＴ基地
第８回　意見を書く（３）事実の見方は正しいか；脳科学の応用
第９回　意見を書く（４）別の視点から見たら；ＩＣタグ
第10回　意見を書く（５）将来的には？；ナノテクで人体を作る
第11回　特別講義を聴いて討議する：電磁波の生体に対する影響（岡本良治先生）
第12回　特別講義を聴いて討議する：バリアフリー技術におけるニーズの衝突（寺町賢一先生）
第13回　特別講義を聴いて討議する：車なし社会の実現（橘武史先生）
第14回　まとめ　－自己評価と授業評価－

５．評価方法・基準

毎回の要旨（40%）、授業への参加度（20%）、意見文課題（40%）の伸びで評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

８．オフィスアワー

月曜日４限

選択日本事情Ａ　Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：前期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　アプドゥハン　恭子

１．概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し､異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

２．キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

３．到達目標

①　日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
②　討議に積極的に参加して考えを深める
③　異なる文化、社会について理解する
④　日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

４．授業計画

第１回　アイスブレーキング：国のイメージ
第２回　学校生活
第３回　日本料理と食生活
第４回　しつけとマナー、人間関係
第５回　若者文化
第６回　年中行事
第７回　まんが（世界に発信する現代日本文化）
第８回　結婚と女性
第９回　住宅事情と住文化
第10回　宗教と信仰
第11回　労働観
第12回　社会保障制度
第13回　自殺
第14回　外国から見た現代日本
第15回　まとめ

５．評価方法・基準

レポート（60％）及び　毎回提出のノート・授業への参加度（40％）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

自分の意見を分かりやすく伝えようと努力すること。相手の実情を理解しようとし、日本との違いはどこからくるのか考えを深めること。関連する項目について図書館等で資料を探して学習する習慣を身につけよう。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業中に紹介する。

８．オフィスアワー

月曜日３限

選択日本事情Ｂ　Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科　学年：２・３・４年次
学期：後期　単位区分：選択　単位数：２単位
担当教員名　　アプドゥハン　恭子

１．概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し､異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

２．キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

３．到達目標

・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて考えることができる
・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

４．授業計画

学生自身がその時々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。

その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

５．評価方法・基準

発表（50％）及び毎回のノート（30％）授業への参加度（20％）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

８．オフィスアワー

月曜日３限